

北朝鮮による核実験強行に断固抗議する

2017年9月3日

日本原水協事務局長 安井正和

本日、北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）が、6回目となる核実験を強行した。これは、世界と地域の平和と安全を根底から脅かす国際社会への重大な挑戦であり、被爆国日本国民の核兵器廃絶の願いを踏みにじる暴挙として、断固抗議する。

米朝両国による相互の挑発と威嚇の繰り返しは、軍事的衝突の現実の可能性を強め、極めて重大な危険をつくりだしている。

北朝鮮に対して、核実験・ミサイル発射を直ちに停止するよう強く要求する。同時に、全当事者が軍事演習をふくむいっさいの挑発をやめ、平和的解決の姿勢を明確にすべきだ。

日本政府が隣国として北朝鮮に核実験・ミサイル発射停止を要求するだけでは対応にならない。対米依存の軍事的圧力でなく、日本国憲法、国連憲章、この間の安保理決議にそった話し合い解決の努力、米朝直接対話を働きかけるよう求める。

核兵器禁止条約の調印の開始が9月20日に迫っており、世界の大勢は核兵器の全面禁止へと大きく動いている。その努力はどこよりも、ここ東アジアで必要だ。北朝鮮はもとより、日本を含め、すべての当事国が、核抑止力依存から核兵器の禁止・廃絶へ、いま、その大きく方向を変えるべきことを重ねて強調する。